

高岡ロータリークラブ

2023/1/12

会長／谷道 伸也 幹事／島 尚之

イマジン ロータリー

No.24

例会日：木曜日 12:30~13:30 創立：1951/11/15 チャーターナイト：1952/4/15 創立順位：No.68

司会 勝山 会場監督 点鐘 谷道 会長
国歌斉唱

ロータリーの目的／四つのテスト

ピジター 1名

会長挨拶／報告

◇誕生祝

四津谷 道宏さん (1/12・54才)

山下 清胤さん (1/18・69才)

◇皆出席表彰

小間 茂雄さん (36年)

鞍野 誠さん (15年)

竹中 伸行さん (12年)

◇本日ご入会の松波広之さんの紹介…牧野会員より

新入会員に会員章ほか贈呈

松波新入会員の入会挨拶



《新入会員プロフィール》

氏名 松波 広之

職業分類 清涼飲料

勤務先 北陸コカ・コーラボトリング株式会社

役職 執行役員

入会日 R5.1.12

幹事報告

◇配布⇒卓上にロータリーの友 1月号

◇新入会員オリエンテーション⇒例会後（桐の間）

委員会報告

◇雑誌…ロータリーの友 1月号紹介（四津谷委員長）

◇SAA…テーブルマスター選任依頼

＝長柄さんより会葬のご挨拶＝

皆様、明けましておめでとうございます。昨年未の父の葬儀に際しまして年末のお忙しい中、足元の悪い中、多数ご会葬いただき有難うございました。また、温かいお言葉や弔意等もいただき重ねて御礼申し上げます。本年も宜しくお願い致します。

< ニコニコBOX 12件 44,000円 >

谷道会長／本日は、今年、第一回目の通常例会です。会員卓話をお願いいたしました 車 英里さん よろしく申し上げます。楽しみにしております。10 日富山銀行富久栄会の総会、懇親会に参加させていただきました。中沖頭取ありがとうございます。新たに副会長になられた勝山さん、頑張ってください。

本日入会の松波広之さん、ロータリーを楽しんでください。

塩崎副会長／松波さん入会おめでとうございます。ロータリークラブ活動を楽しんでください。車さん卓話よろしく申し上げます。

島幹事／松波さん入会おめでとうございます。車さん卓話楽しみにしています。

松原君／村上館長をお迎えて。

小間君／長くお世話になっております。「ロータリーの友」創刊 70 周年も祝して！

田中君／車英里さん卓話ががんばってください。昨日になって題目を仕事から趣味に変更したそうですが、それは「スゴイ！」楽しみにしています。

竹中君／村上館長、ようこそ高岡RCへ。車さん本日卓話楽しみにしています。皆出席祝ありがとうございました。

加茂君／令和 5 年の初出席となります。本年も宜しくお願い致します。

高木君／1 月 7 日の京都今日庵初釜式に御招待を受けました。当クラブ岡本会員が正客の素晴らしいお席にご相伴でき、うれしい一年のスタートとなりました。

四津谷君／誕生祝ありがとうございます。54 歳となりました。福山雅治さんと同じ歳、磯野波平とも同じ歳。うれしいのか悲しいのか分かりません。

奈良君／誕生日のお祝いいただきました。ありがとうございました。

2023 1月

プログラム

会員卓話

『いい仕事してます！』
車 英里 会員



卓話タイトル：いい仕事してます！

昨日の朝にロータリーの卓話は自分の人となりわかるものが良いと言われ、自社紹介、業界の動向、そしてカーボンニュートラルなどの話をしようと思って用意していた資料を全て変更し今日臨みますのでお見苦しい点があればご容赦願いたいと思います。

私は大学卒業とともに、それまでディズニーのキャストとして稼いだお金をずっと貯めて親に内緒で買った愛車のアメリカンバイク・ヤマハのドラッグスタークラシックを売り、それを元手にして2年程ヨーロッパに滞在しました。そろそろコロナも収まりつつありまた旅行に行きたいなぁという希望も込めて、今日は私の大好きな旅行先での楽しみ方をお話したいと思います。

私はエジプト、日本だと奈良時代などの古代史、ヨーロッパ、とくにイタリアやギリシャに現存する建築、彫刻、西洋美術が好きなんです。イタリアは特にフォロロマーノ、コロッセオなど有名な古代建築物や教会などもきれいに残っていて。

イタリアの首都ローマの中にある世界最小の国バチカン市国は大好きな場所で、何度も訪れています。バチカン市国の中にあるサンピエトロ聖堂に入ると中にシスティーナ礼拝堂があり、ミケランジェロの描いた「最後の審判」が正面の壁にえがかれています。ミケランジェロ・ブオナローティにより1536年から1541年の5年間で描かれたもので、この絵には面白い所がありまして真ん中に人の皮を持った聖バルトロマイというインドやアルメニアなどキリスト教がないところへ普及活動に行き、とらえられて皮はぎの刑にあって殉教した聖人が自分のはがされた皮を持った姿で描かれています。でもよく見ると顔が全然違うんです。この顔は誰でしょう？実はミケランジェロの自画像なんだそうです。

どうしてはがされた皮を自分として描いたのか？

まずミケランジェロという人なんですが、レオナルドダヴィンチ、ラファエロ・サンティと並んで称されるルネサンス3大巨匠の一人です。ミケランジェロとしてはダヴィンチと並んでそう呼ばれるのはものすごく

不本意なことでしょう。並べられるのはちょっとかわいそうかも。レオナルドダヴィンチは完成した作品というのが14、15点しか確認されていないが、それに対してミケランジェロの作品数は何百倍も作っている。絵だけじゃなく彫刻もあれば建築もある。今お見せした最後の審判だけでも13.7m x 12mの大きさなので、これ1枚でレオナルドの全作品面積より大きいでしょうね。

ミケランジェロ、元々の専門は彫刻です。24歳の時にバチカンで有名なピエタという彫刻、29歳で5x2mのダビデ像を掘っています。彫刻家としてもすごいし、画家としてもすごい人なんです。先ほど見せた突き当りの壁だけではなく40x14mの天井画も描いています。これだけの仕事量をこなしていたので、当時ミケランジェロのあだ名はイルディビーノ(神のごとき人)と言われているほどでした。納期を守らないと評判で仕事がなかったレオナルドダヴィンチと一緒に3大巨匠と言われているのはちょっとかわいそうなんです。カトリックのトップであるローマ教皇の礼拝堂がバチカン市国のシスティーナ礼拝堂、つまり一番格式の高い場所になり、そういうところにミケランジェロはたくさん絵を描いたわけなんです。システィーナ礼拝堂の両側にはミケランジェロの先輩や師匠達を書いた絵が並んでいて、ミケランジェロはその上の天井画、そして突き当りの壁にある絵も任されています。最後の審判が描かれている突き当りの壁には元々ラファエロの師匠ペルジーノが書いた聖母被昇天の絵がありましたがその上から描くことになったわけで、つまりは過去最高と言われるほどのアーティストだと認められていたということです。そのためミケランジェロに依頼が殺到したわけです。

ミケランジェロが30歳の時に当時のローマ教皇ユーリウス2世より、自分のお墓をローマのサンピエトロ聖堂の中に作ってほしいと依頼され、フィレンツェ出身のミケランジェロがローマに呼ばれました。このお墓の一部が有名なモーゼ像です。このユーリウス2世が他に命じた仕事がシスティーナ礼拝堂の天井画で、天地創造と言われる旧約聖書の世界が描かれています。最初は6人くらいの助手と一緒に作成していましたが、全員クビにして、ほぼ1人で4年かけて描き上げました。1512年にシスティーナ礼拝堂の天井画が完成し、その翌年にユーリウス二世が亡くなりました。なので途中だったユーリウス2世のお墓を早々に完成させなければいけなくなりました。

次にローマ教皇になったのがレオ10世。この人はミケランジェロの故郷フィレンツェのメディチ家の出身で、ミケランジェロにフィレンツェに帰ってメディチ家の礼拝堂も作ってほしいと依頼されました。ユーリウス2世のお墓よりもメディチ家の礼拝堂を優先した為、ユーリウス二世のお墓の完成が遅れに遅れ、ユーリウス2世の親戚から訴えられる事にもなりました。次のローマ教皇クレメンス7世もフィレンツェのメディチ家出身で、とにかくメディチ家の礼拝堂を優先し

て片付けないと他の仕事ができないという状況になりました。この後、ローマにはオーストリアの神聖ローマ帝国が攻めてきたり、フィレンツェでは群衆が抗議運動を起こしたりと国内が大変な状況になりました。そんな大変な中で 1533 年によやくメディチ家礼拝堂が完成しました。

そしていきつく暇もなく、クレメンス 7 世が次の仕事として指示したのが最初に見せた「最後の審判」だったわけです。

最後の審判はどういうテーマなのかというと、真ん中いるイエスキリストが人々が天国に行くか地獄に行くかを振り分ける、つまり審判をしている絵です。キリスト教では、世界最後の日になるとイエスキリストが再び現れて今まで死んだ人が甦って天国か地獄かの最後の審判を受けるというふうに言われています。左側が天国に上がっていく人たちで、右側が地獄に落ちていく人たち。実はこの最後の審判では画面全体の人物の配置やひねったポージングなどから、不安や恐れなどが感じられ、不安定さを表したような状態になっています。天国に上がる人さえも苦しそうに見えます。ルネサンス的な安定した絵ではない技法がこの絵では完成されていると言われています。マニエリズムの先駆けであると言われています。ミケランジェロがフラフラに、つまり抜け殻になりながら書いている状態の為、心の叫びが冒頭の皮だけのミケランジェロの自画像につながってくるんですね。最後の審判が完成したのは 1541 年ミケランジェロ 66 歳。

有名な話ですが元々最後の審判に登場する人物絵は全員裸でした。当時、公式行事の準備をする儀典長チェゼーナが、全裸に対して下品だなんだと言って最も格式高いシスティーナ礼拝堂にふさわしく服を着せろと抗議しました。ミケランジェロはこれに反発し、地獄の裁判官ミノスの顔をこのチェゼーナ儀典長の顔にしてしまいました。そしてさらに悪魔と馬鹿の象徴である口バの耳をつけ、罪の象徴である蛇をまきつかせて、しかも蛇に性器をかみつかせ、右下にある地獄の一部に描いてしまったんです。これに対しチェゼーナは当時のローマ教皇に自分の顔を描き直させてください！訴えましたが、教皇は「地獄は管轄外で私の権限はないから無理」と言ったそうで。

余談ですが、ミケランジェロが亡くなった後に神聖な場所に裸の絵が描かれている事に対し批判を受けた当時のローマ教皇が、ミケランジェロの弟子に腰を覆う布を後から描かせました。その弟子はその後「腰巻野郎」という不名誉なあだ名をつけられてしまったそうです。

結論、どうしてはがされた皮にミケランジェロは自分の顔を描いたか？ですが、仕事を任せすぎてフラフラになってしまったミケランジェロの「もうしんどい！」という自虐的な自画像だったという事で、才能がありすぎて注文がたくさんくるというのも困りものだという事ですね。その後ミケランジェロは 88 歳まで生きて、数えきれないくらいの作品を残していま

す。時間があるのでなぜミケランジェロがレオナルドダヴィンチと並び称されるのは不本意に思うだろうし、ミケランジェロがかわいそうかという点なんですが、ダヴィンチは 67 歳まで生きて確認できる完成した絵画数は 14、15 点くらいしかありません。同じく 3 大巨匠として有名な画家でラファエロという人は 37 歳という若さで亡くなりました。が、120 点以上の作品を残しています。ダヴィンチの作品数は 2 人に比べて圧倒的に少ないんです。なんで少ないのかと言いますと、1 つ 1 つの作品に時間がかかったから、そして注文も少なかったからでした。絵がとてもうまい人で当時からとても有名なんですが、注文が少なかった理由は、まず注文通り描かない。そしていつも納期を守らない。ダヴィンチは我が強く完璧主義者で自分の好きに描き、自分が良いと思ったものしか完成させない。例えば岩窟の聖母という絵が 2 枚あるんですが、最初に描いた絵は注文主に注文と違う絵だと言われ裁判になりました。長い間揉めている間に違う人にこの作品を売ってしまいました。判決が出て注文通りに新たに描き直したんですが、ほとんど他の人の手が入っているとされています。そういう性格だった為、絵がうまくても誰も頼まない状態になっていました。故郷のフィレンツェでも他にうまい人はたくさんいたのでわざわざダヴィンチに依頼する必要がなく、全く仕事がない状態でした。当時のルネサンス時代の画家にとって、ローマ教皇から注文を受けることが一番の名譽で、有名な作家はみんなバチカンに作品が残っています。しかしダヴィンチはバチカンに 1 つも作品を残していません。有名なモナリザは注文主にあまりに完成が遅いので、もういらない！と断られ、ダヴィンチが生涯持ち歩いてきた絵です。晩年はミラノを攻めた敵であるフランスの王様フランソワ 1 世につかえました。そのためダヴィンチの遺品のモナリザは今フランスのルーブル美術館におさめられています。生涯ずっと持ち歩いてきたため、最初の注文のリザさんの肖像画から自分にとって理想的な人物像にどんどん描き直していったということです。ミケランジェロに話を戻します。いい仕事をするにはもちろん良いことなんですが、部下に仕事を任せられないだとか、仕事を請け負い過ぎてしまうと自分の身を削り、最後はミケランジェロのようにフラフラになってしまうということですね。1 人だけで頑張りすぎてそうならないよう、高岡ロータリーではみんなが協力して仕事をわけられるようにしたいものだなあと最後の審判の皮になったミケランジェロを見て思えばかりです(笑)。ご静聴ありがとうございました。